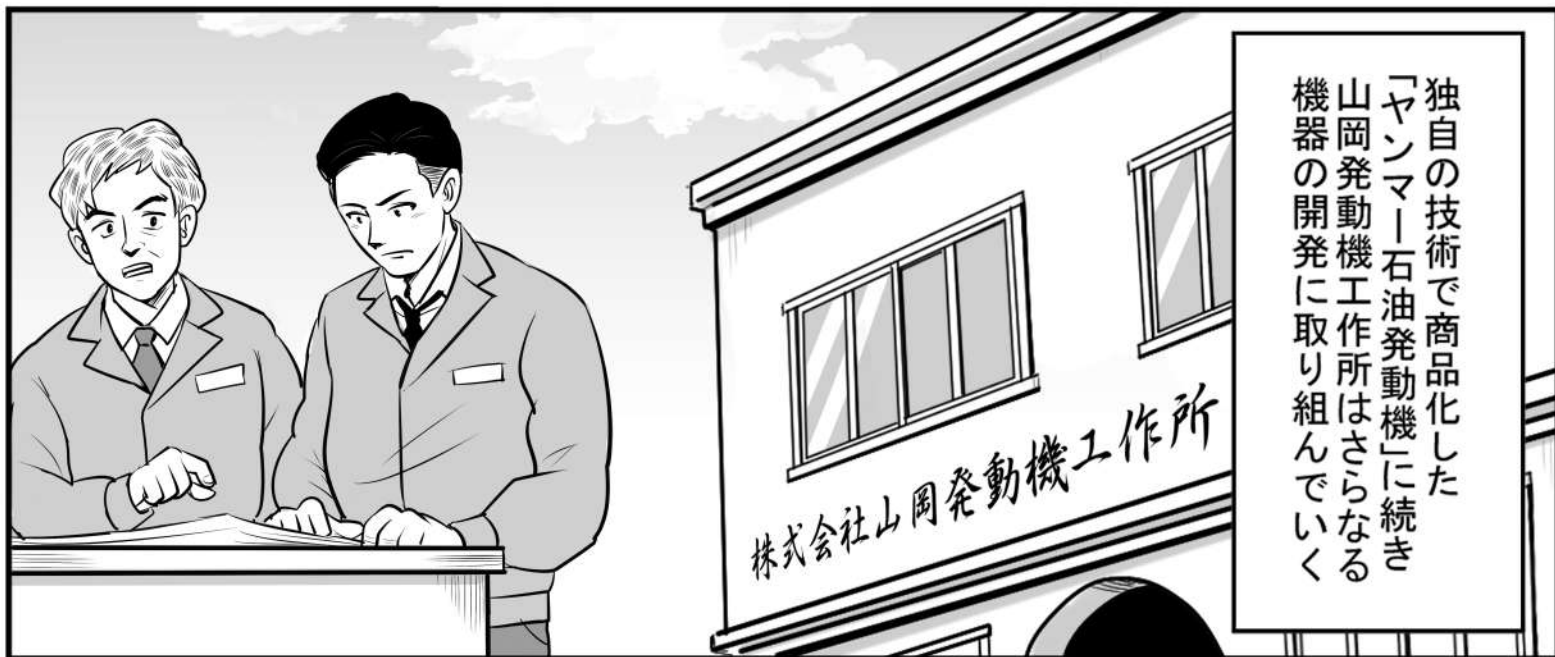


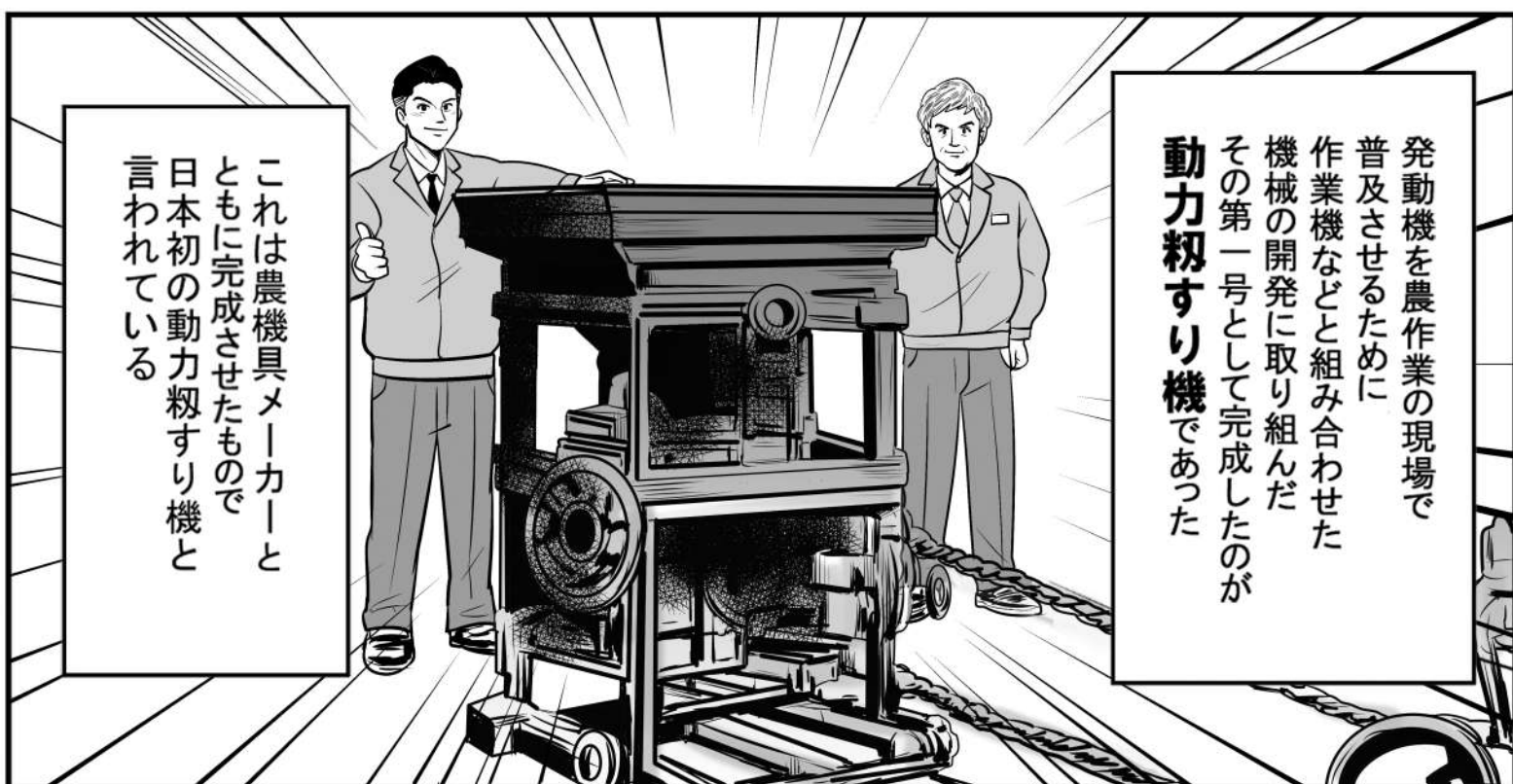
2 躍進と停滞期

企業の命運を握るディーゼルエンジンとの出会い





独自の技術で商品化した「ヤンマー石油発動機」に続き山岡発動機工作所はさらなる機器の開発に取り組んでいく



発動機を農作業の現場で普及させるために作業機などと組み合わせた機械の開発に取り組んだその第一号として完成したのが**動力糶すり機**であった

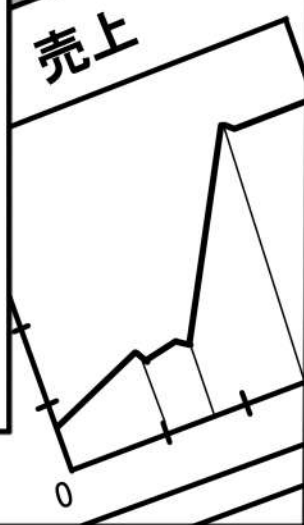


また、1921年には
揚水ポンプである
「ヤンマーバーチカルポンプ」
を開発

ヤンマ



売上

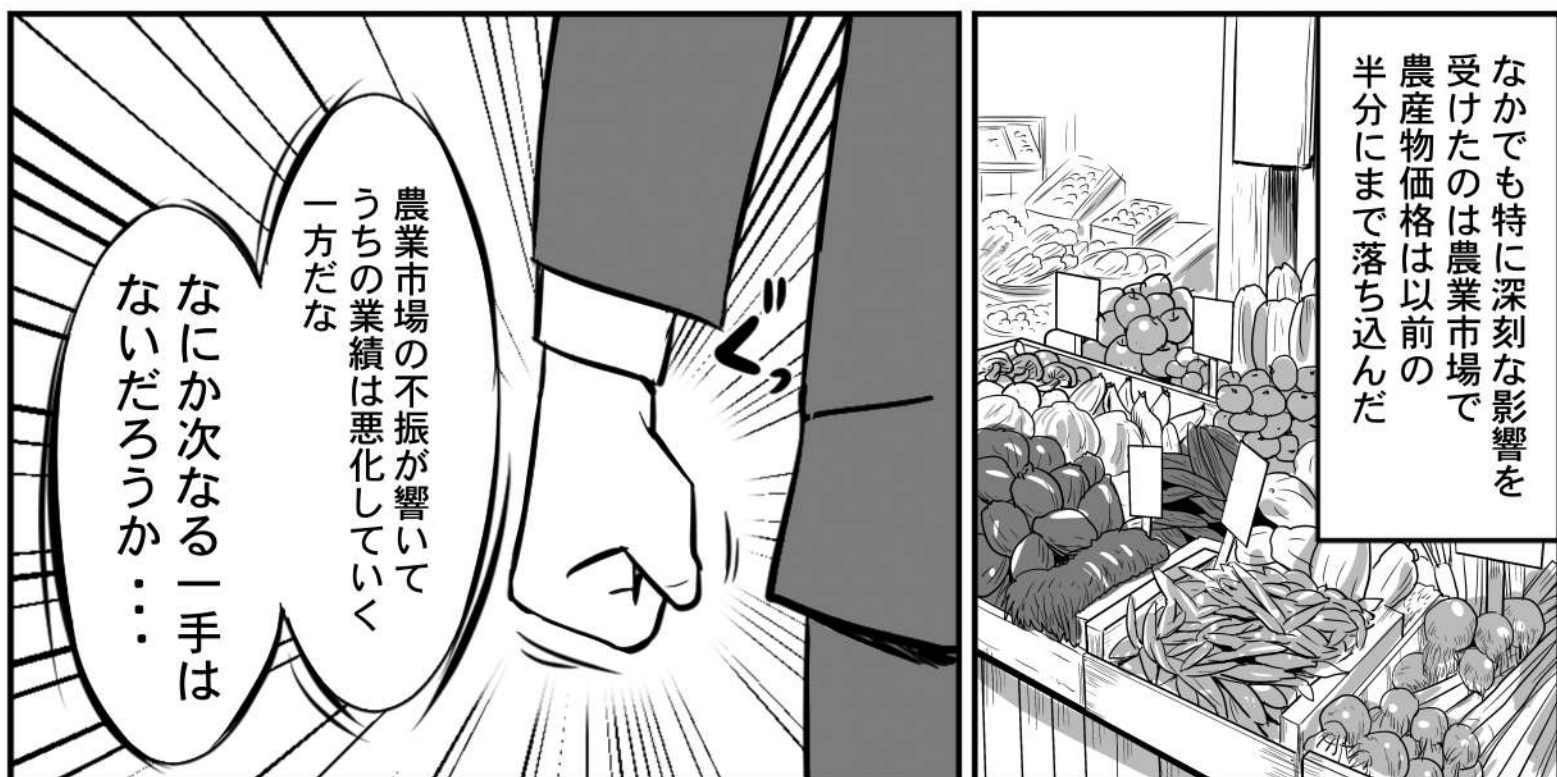
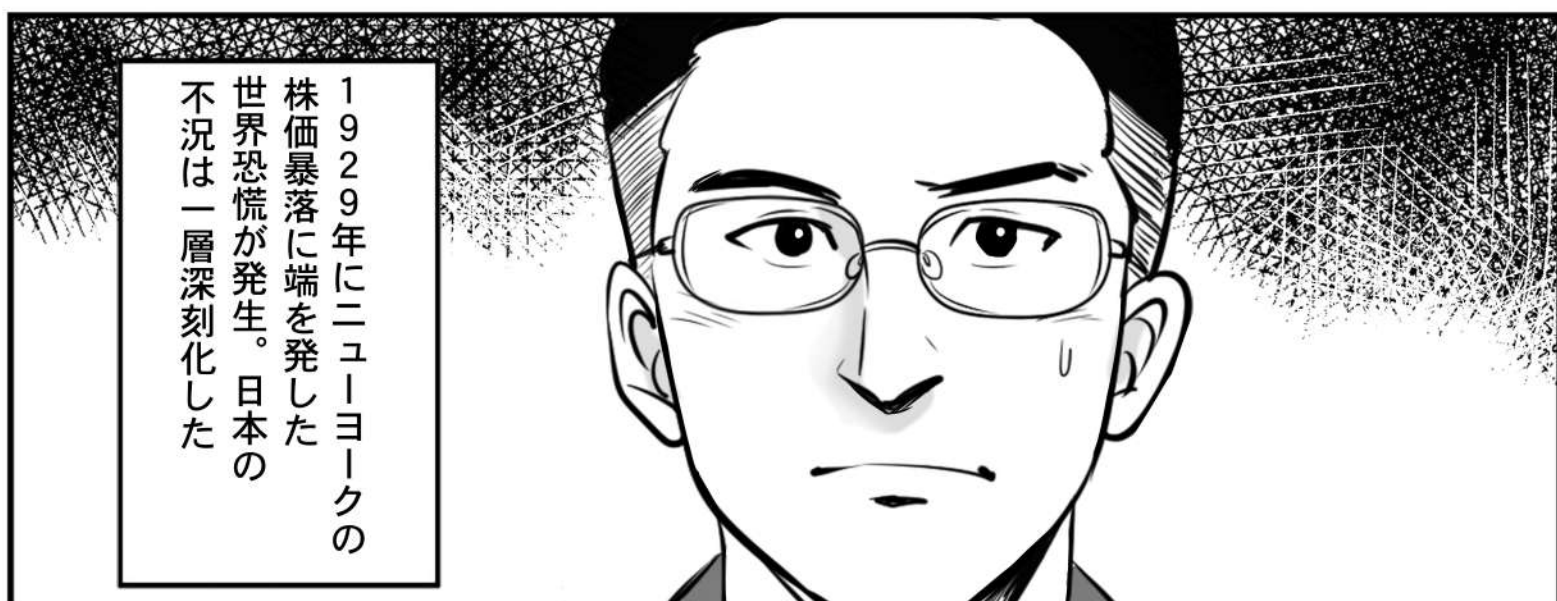
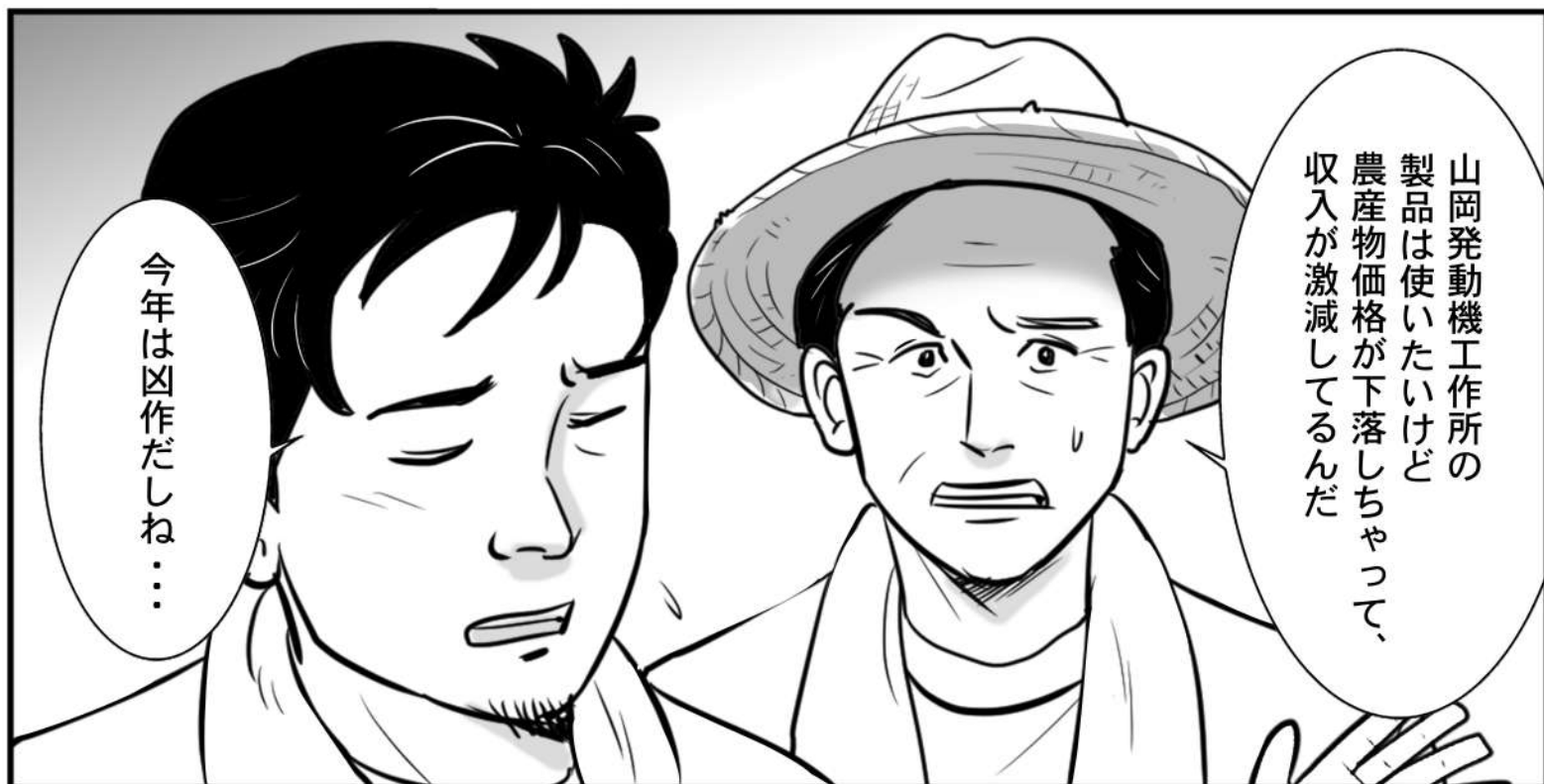


揚水作業を大幅に省力化
させる商品である事と
干ばつが続いたこともあり
爆発的なヒットを記録する

山岡さんの会社は
調子いいね！
もう日本の農作業の
動力化の一翼を担う
企業じゃないか

ありがとう、
いまアジア各地を中心に
積極的に海外にも
進出しているところなんだ

しかし順調だった事業も
昭和の金融恐慌により
かげりが見え始める



孫吉の願いも虚しく
会社の業績は悪化の
一途をたどる

そんな環境下でも努力を続け
1931年2月に組織を改め
資本金100万円で
「株式会社山岡発動機工作所」
を設立



売上



しかし、日本では
深刻な不況を背景にした
労働争議をキッカケに
全国各地でストライキが
頻発

労働

ストライキ

反対！ 反対

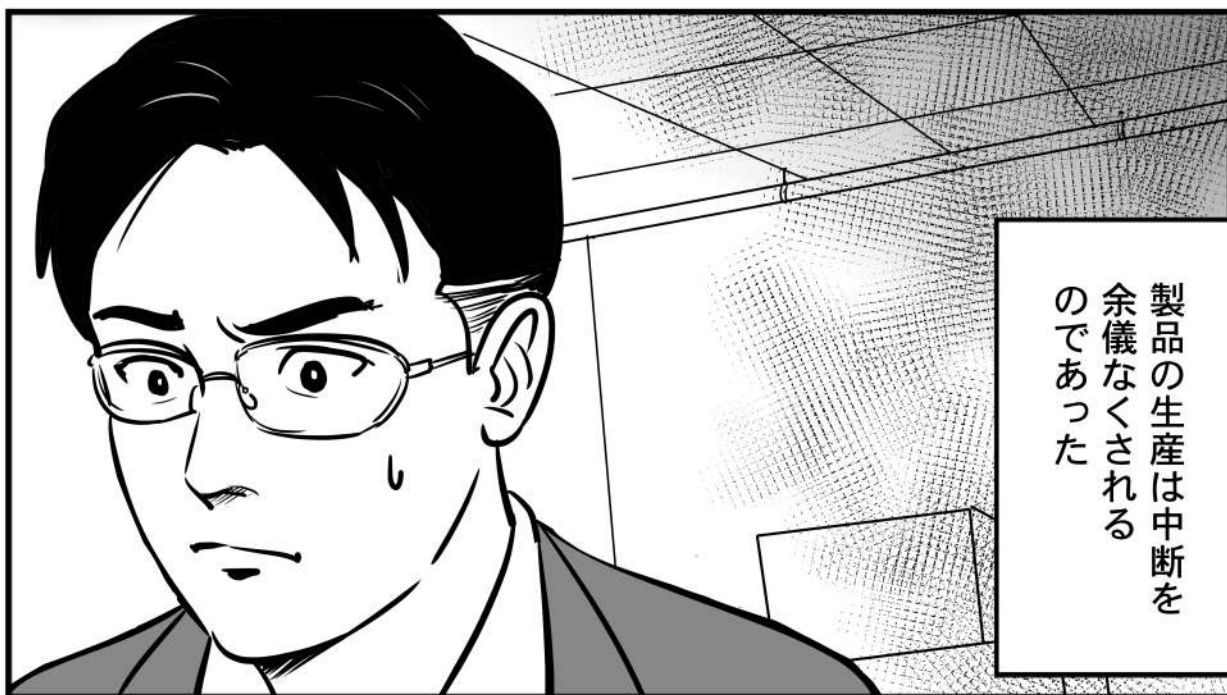
反対！！

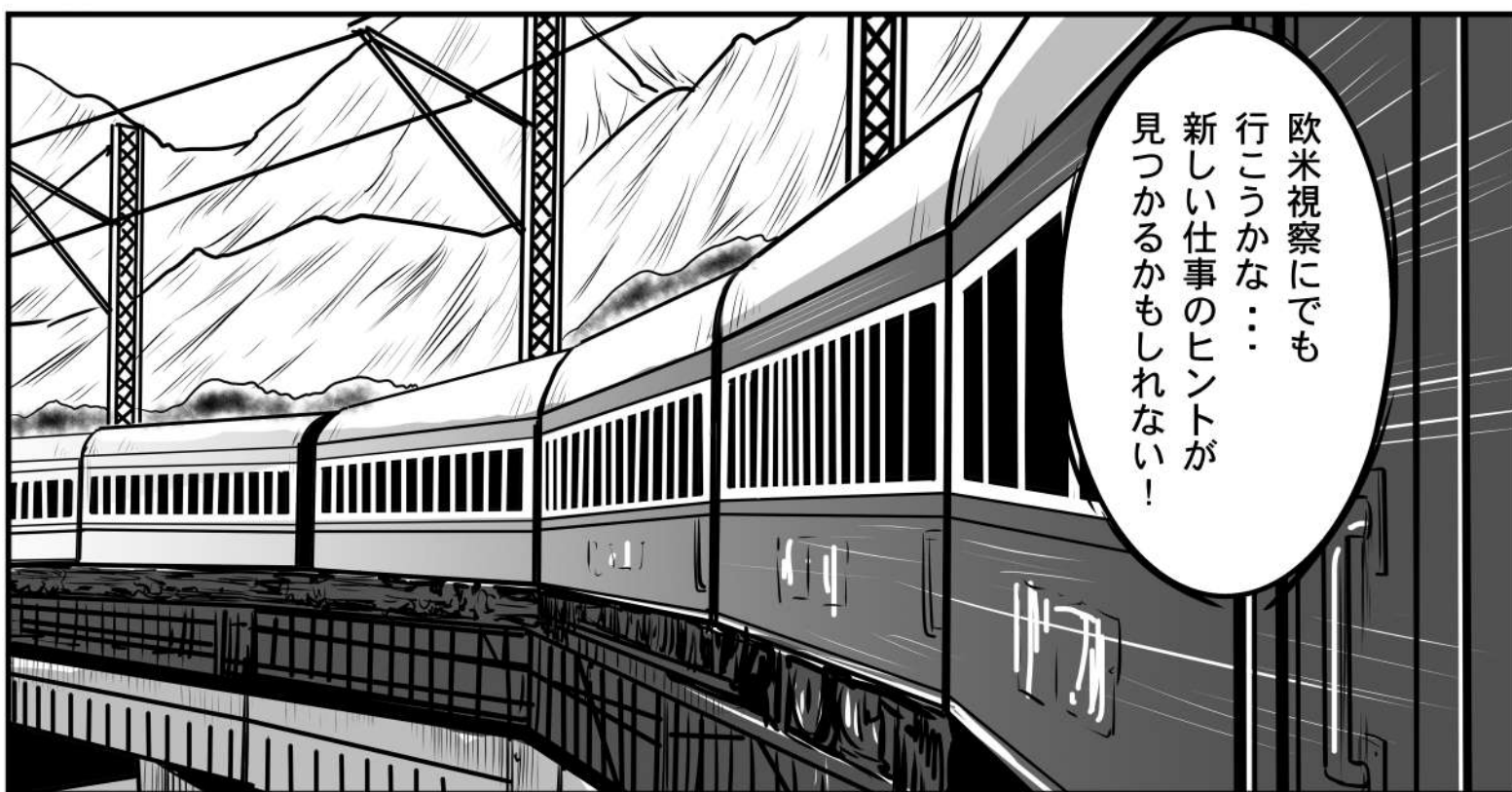
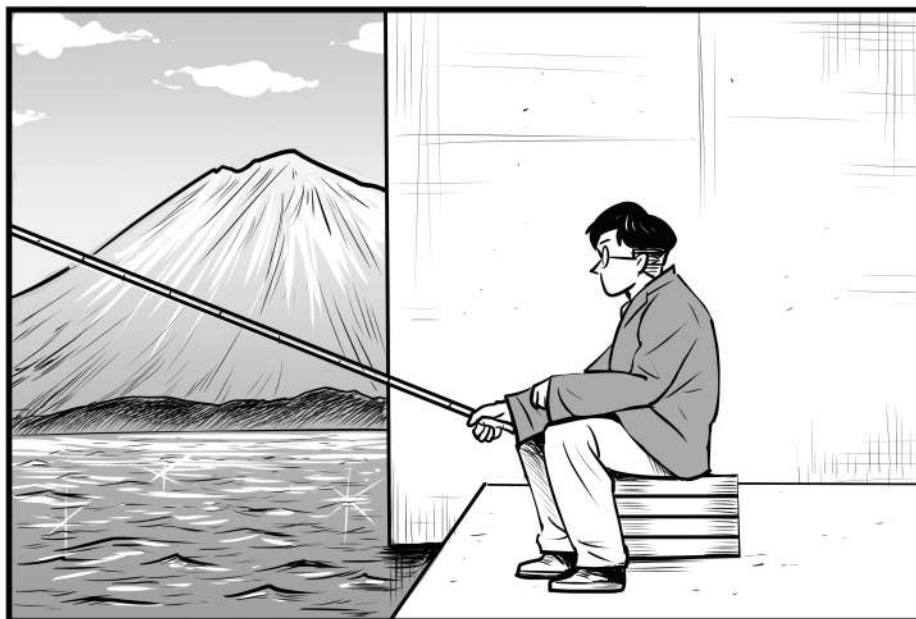
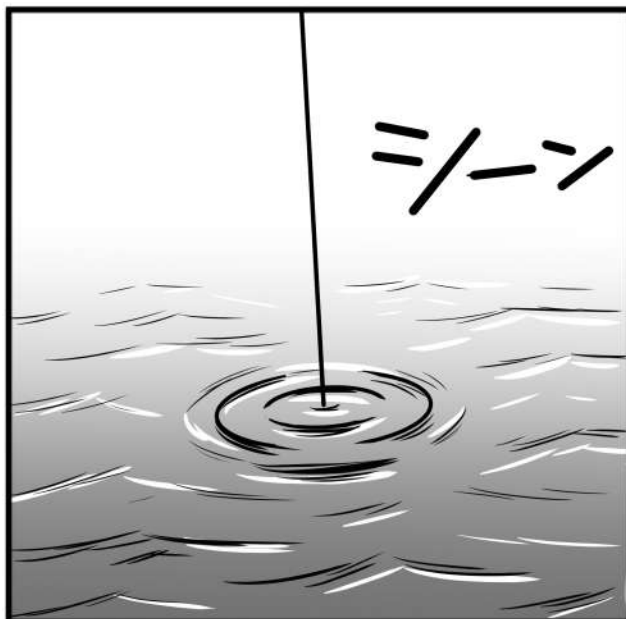
反対！

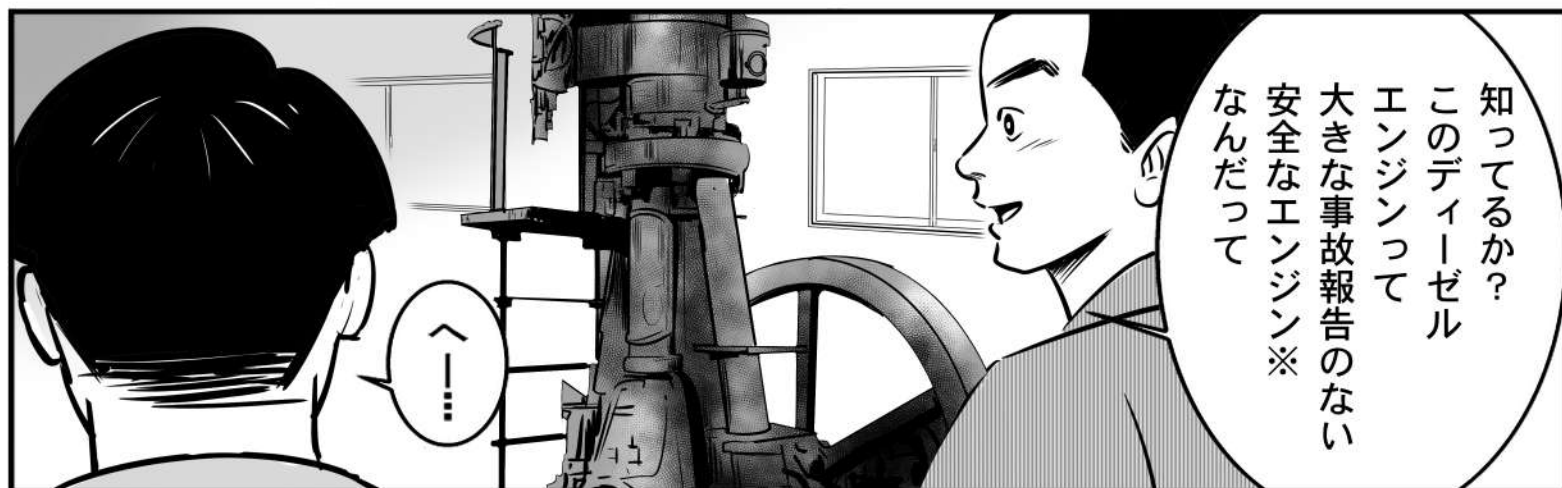


「株式会社山岡発動機
工作所」も例外ではなく
1931年4月から
9月までの間
ストライキが起こり

製品の生産は中断を
余儀なくされる
のであった



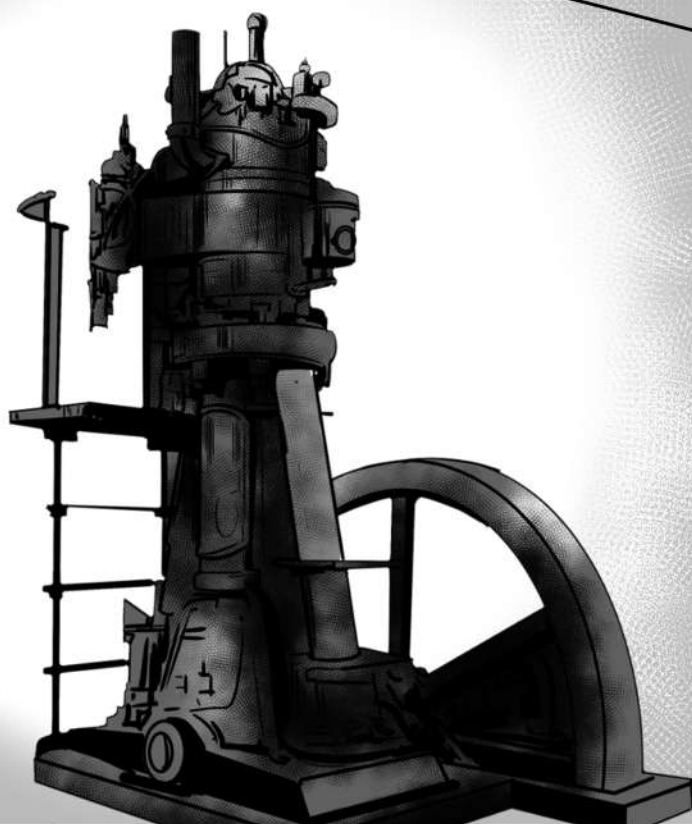




※それまでの発動機(エンジン)は燃料が燃えやすく、火災事故に悩まされていた。



ディーゼル
エンジンの
安全性と経済性
耐久性は
すばらしいな



ディーゼルエンジンに
感動した孫吉は
毎日足を運び
このPR映像を見ていた

このエンジンを
農業に活用できれば
重労働である
農作業を軽減する
という夢を
実現できる



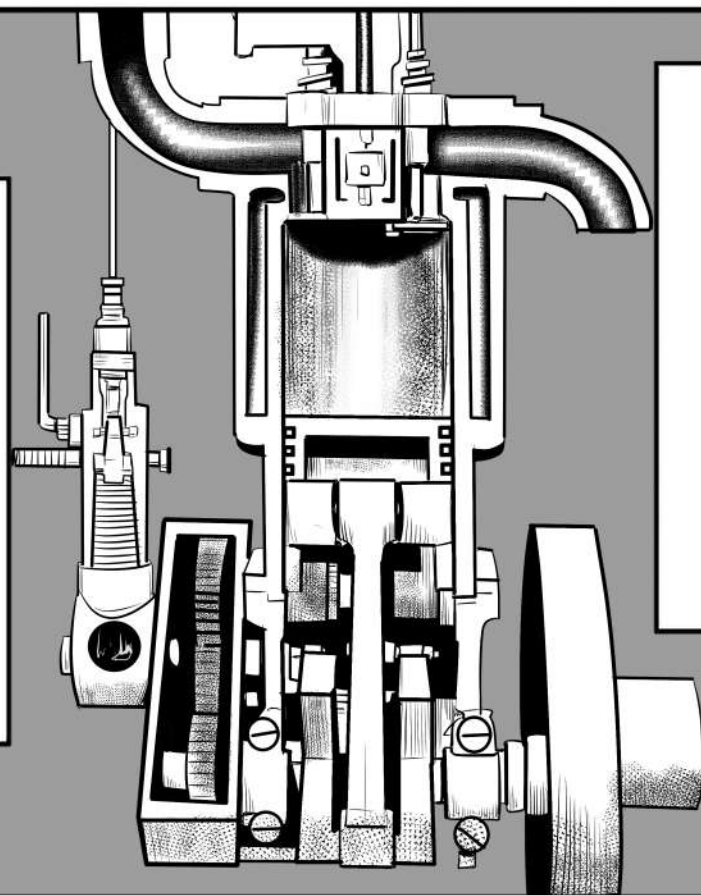
孫吉はこの体験により
失いかけていた事業への
情熱を力強く甦らせる

そして農業用に使える
可搬性に優れた
小型ディーゼルエンジンが
必要だと改めて実感する

しかし、ライプチヒのメッセでも
小型のものは見当たらず
ドイツ国内の製造メーカーを
20〜30社ほど訪ね歩いたが
期待したような
小型エンジンはどこにも
存在しなかったのである

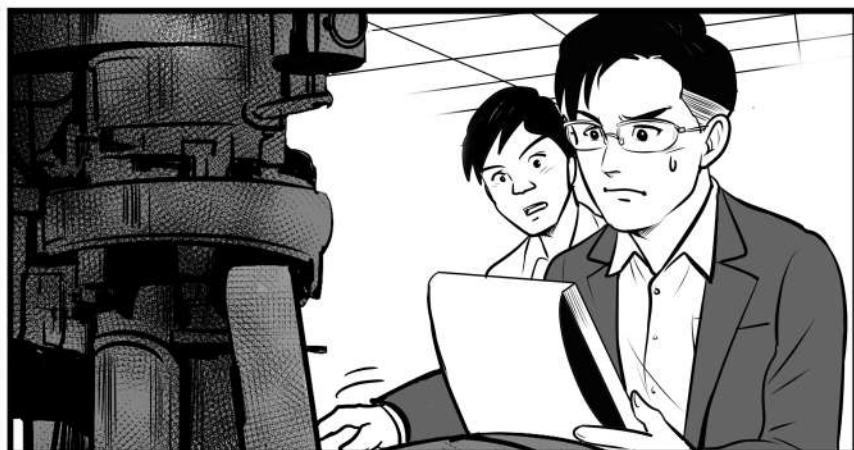


当時、ディーゼルエンジンの
小型化は技術的に
困難というのが通説であつた



小型と大型では燃焼条件が
異なり、構造をそのまま
踏襲することもできない

多くの研究者やメーカーが
小型化に挑み、挫折する
ような製品だったのである



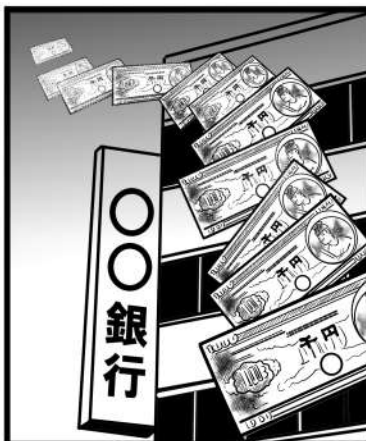
独創的な技術で活路を
見出し、完成しては
不具合が見つかるという
一進一退の繰り返しだった



帰国してすぐに孫吉は
小型ディーゼルエンジンの
開発に着手



開発が長期間に渡ったため
莫大な開発費用が
経営を圧迫、取引銀行も融資に
応じてくれない状況になり



開発チームにも
疲労の色が現れ始めた



孫吉は夏を過ぎた頃に
開発の断念を決心する



悪い…開発は
中止だ

社長、資金がなくても
俺たちは諦めませんよ



そうですよ！
ディーゼルエンジンの
小型化は絶対
成し遂げられます

社員たちはその決断を
聞いてもなお精魂を傾け
設計の見直しやエンジンの
試作など開発に全力を注ぐ



それは、技術者
一人ひとりの
プライドをかけた
執念にも近いような
ものであった



そして
1933年12月23日
早朝、事務所裏の試運転場

株式会社山岡発動機工作所

社長！
回りました！

ガチャ

ざわ ざわ

ざわ

1年5ヶ月にわたる
苦闘の時を経て
とうとうその日が訪れた

グオンッ
グオンッ

14、15人の技術者たちが
集合する中
コールドスタート※で
エンジンが唸る

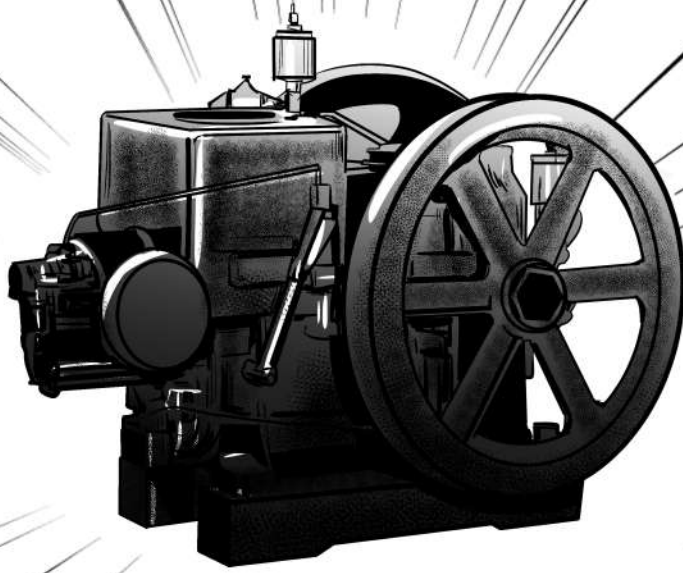
※ コールドスタート=エンジンや電動機が外気圧と同じかそれよりも冷えている状態で、始動する事

スルスルスル

そして、エンジンは
そのまま力強い爆発音を
響かせて、安定した
回転を続けていく

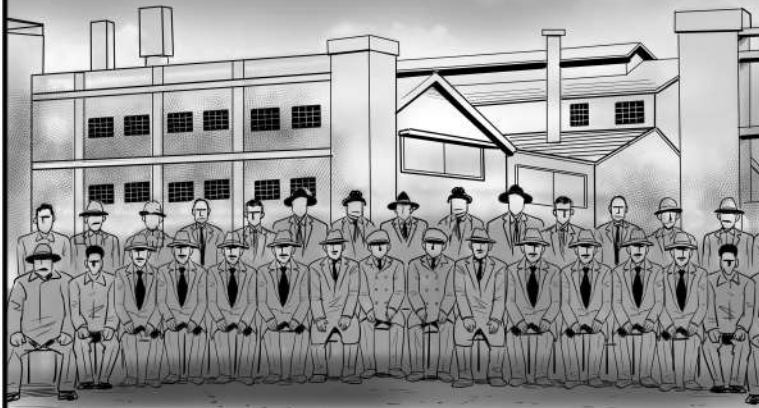


完成した世界初の
小型ディーゼルエンジンは
横型水冷タイプで
出力は5馬力



「HB型」と
名付けられた

そして、その後も孫吉は
開発の手を休めることなく
この「HB型」をもとに
さらに小型化した
「S型」を開発



農業用に役立つ
エンジンとして
月産1000台、将来の
年産3万台という計画を
打ち立てて大量生産に着手し
小型ディーゼルエンジンの
普及に向けて精力的に
動いていくのであった

農業が景気回復期で
あったことも手伝い
小型ディーゼルエンジンは
孫吉が意図した通り
全国の農村へ急速に
普及していく

機が熟したと判断した孫吉は
1937年1月に石油発動機の
生産中止を決断し、ディーゼル
エンジン専門メーカーになる事を宣言
社名も山岡発動機工作所から
山岡内燃機株式会社へ変更する





その頃、孫吉が
経営の基本理念
として正式に
表明した言葉がある



そして
小型ディーゼルエンジンの
農業市場への
さらなる浸透を進め
各地で好評を博すこととなる



それが



社長、どんな
意味なんですか？

燃費に優れた
ディーゼルエンジンを
普及させることで
農業漁業の
ためだけではなく

石油資源の少ない
日本社会に
貢献することを
志すって意味だよ



この基本理念は
現代に至るまで脈々と
ヤンマーの企業精神として
受け継がれている

世界初の
小型ディーゼルエンジンの
完成から数年

これまで取り組んできた
開発が起点となり
孫吉たちは農業市場の
発展に大きく
貢献していくのであった